

生活

日 月 火

水 木 金 土

家族
働く

ア計て住
二家育食
介護・子衣

健康

空ぜきや発声時に違和感

紙上
診察室

久田 哲哉さん



Q 空ぜきと発声時の違和感でアレルギー薬や消化薬、漢方薬を飲んでも改善されず、話す仕事で困っています。(男性・62歳)

A せきやのどの違和感での受診は珍しくありません。主な原因には、心理的・精神的ストレスによる咽喉頭異常感症、加齢による声帯の変化やのどの粘膜の分泌低下、咽喉炎やへんとう炎、喉頭炎など慢性的なものの炎症、アレルギーや胃食道逆流症(逆流性食道炎)などがあります。まれに初期の喉頭がんや咽頭がんなど重大な病気が隠れて

長引くならCT検査を

原因に合った治療が大切です。「発声時の違和感」が、のどの痛みなのか、異物感なのか、症状発生からの期間や進行状況などが診断上重要となります。正しい診断のため、担当医にこれらの点を伝えてください。

もし、症状が長引くなら、念のため頸部から胸部のコンピュータ断層撮影(CT)検査をお勧めします。話す仕事をされ、焦るかもしれませんが、せきやのどの違和感は精神的ストレスでもよく出てくる症状です。

焦りは、かえって症状を長引かせます。検査で重大な病気がないことを確認し、原因があればその治療を焦らず気長に続けてください。症状が長引きよくなる場合には、一度、声の問題を専門に診察している音声外来などのある耳鼻咽喉科を受診するのもいいでしょう。

(世田谷通り桜内科クリニック 院長・東京通信病院客員部長)

▼「紙上診察室」への相談はT10008525(住所不要) 東京新聞生活部。ファクス03(3565)6631。電子メールseikatut@tokyo-np.co.jp 住所、氏名、年齢、電話番号を明記(紙上では匿名)。回答は紙上のみ。

あすの紙面

快護目指して

祖母介護の29歳孫娘⑤